

各位

上場会社名 ファースト住建株式会社
 代表者 代表取締役社長 中島 雄司
 (コード番号 8917)
 問合せ先責任者 取締役管理部長 伊木 雅則
 (TEL 06-4868-5388)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年12月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年10月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年11月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	33,000	750	620	200	11.83
今回発表予想(B)	34,000	1,420	1,340	770	45.56
増減額(B-A)	1,000	670	720	570	
増減率(%)	3.0	89.3	116.1	285.0	
(ご参考)前期実績 (平成20年10月期)	35,094	818	721	54	3.23

修正の理由

昨年、米国におけるサブプライム住宅ローン問題に端を発する金融危機により、世界経済は急速に冷え込み、日本における景気動向も大幅に後退する局面を迎えることとなりました。不動産業界におきましても、消費者マインドの急激な冷え込みに伴って販売価格が低下する傾向が生じており、また、利益面におきましても従来に比べて低い水準で推移することになっておりました。このような経済環境の下、政府は住宅ローン減税拡大等の景気対策を実施しております。

当社におきましては財務体質の健全性を維持し、販売価格の下落により低下した収益性を改善するために、完成在庫の販売促進や事業サイクルの短縮に取り組んでまいりました。その結果、戸建分譲事業における販売棟数の増加に繋がり、売上高が当初の見通しを上回る見込みとなりました。

一方、利益面におきましては完成在庫の圧縮のほか、建築原価の見直しによるコスト削減や適正な価格での分譲用地仕入れに努めた成果として、利益率の改善が当第3四半期会計期間から表れ始め、戸建分譲事業における営業利益、経常利益が当初の見通しを上回る見込みとなりました。

また、上記の利益率改善に加え、労災保険還付金(61百万円)が当第3四半期累計期間において特別利益として計上されたことから、当期純利益が当初の見通しを上回る見込みとなりました。

以上により、平成21年10月期の通期業績予想につきましては、売上高34,000百万円、営業利益1,420百万円、経常利益1,340百万円、当期純利益770百万円となる見込みであります。

以上